

	教科	選 定 理 由
各学科に共通する教科（共通教科）	国語	難易度が本校の生徒の実態に即しており、生徒にとって読解・熟考しやすい内容になっている。加えて、生徒の国語能力を高め言語文化に対する理解等を高めるという本校国語科の重点目標に適しており、適切な創意工夫がなされている。
	地理歴史	大学入試等で必要とされる内容が網羅されていて、難易度も本校生徒の実態に合っている。また、図表や写真なども豊富で使いやすく、教科の目標にも適合している。
	公民	大学入試等で必要とされる内容が網羅されていて、難易度も本校生徒の実態に合っている。また、図表や写真なども豊富で使いやすく、教科の目標にも適合している。
	数学	難易度が生徒の実態に即しており、具体的記述が多く生徒が自学しやすいものになっている。章末問題が充実しており、生徒の習熟度に応じて取り組める。
	理科	内容が教科・科目の目標に適合しており、適切な創意・工夫がなされている。難易度が生徒の実態に即しており、生徒にとって読みやすいものになっている。
	保健体育	本文、図表、表現等が正確でわかりやすく、また難易度も本校生徒の実態に即しており適当である。
	芸術	生徒の実態に即した内容であり、科目の目標を達成するように、適切な創意工夫がなされている。
	外国語	本校生徒の学力伸長のために適した難易度である。題材が多岐にわたり、生徒が興味関心を持って取り組める上に、授業の工夫がしやすい。
	家庭	本校生徒の学力に適した難易度であり、図表等がわかりやすく配置され、生徒が興味関心を持って取り組める構成になっている。
	情報	紙面が読みやすく工夫されている。生徒の実態に即した内容であり、実習についても、生徒の興味を引き出しながら、機器操作の技能が向上するよう工夫されている。